

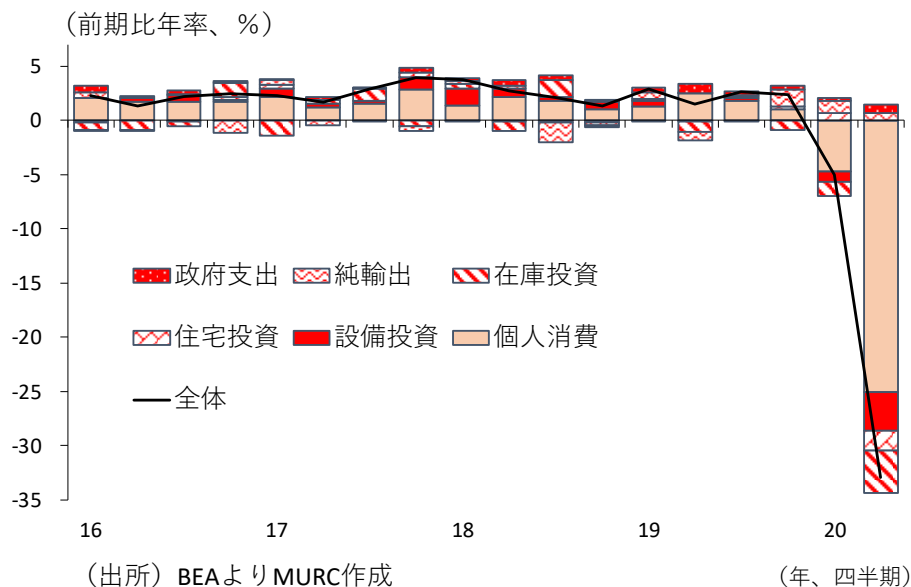
米国景気概況(2020年8月)

調査部

概況 ~ 景気は持ち直しの動き

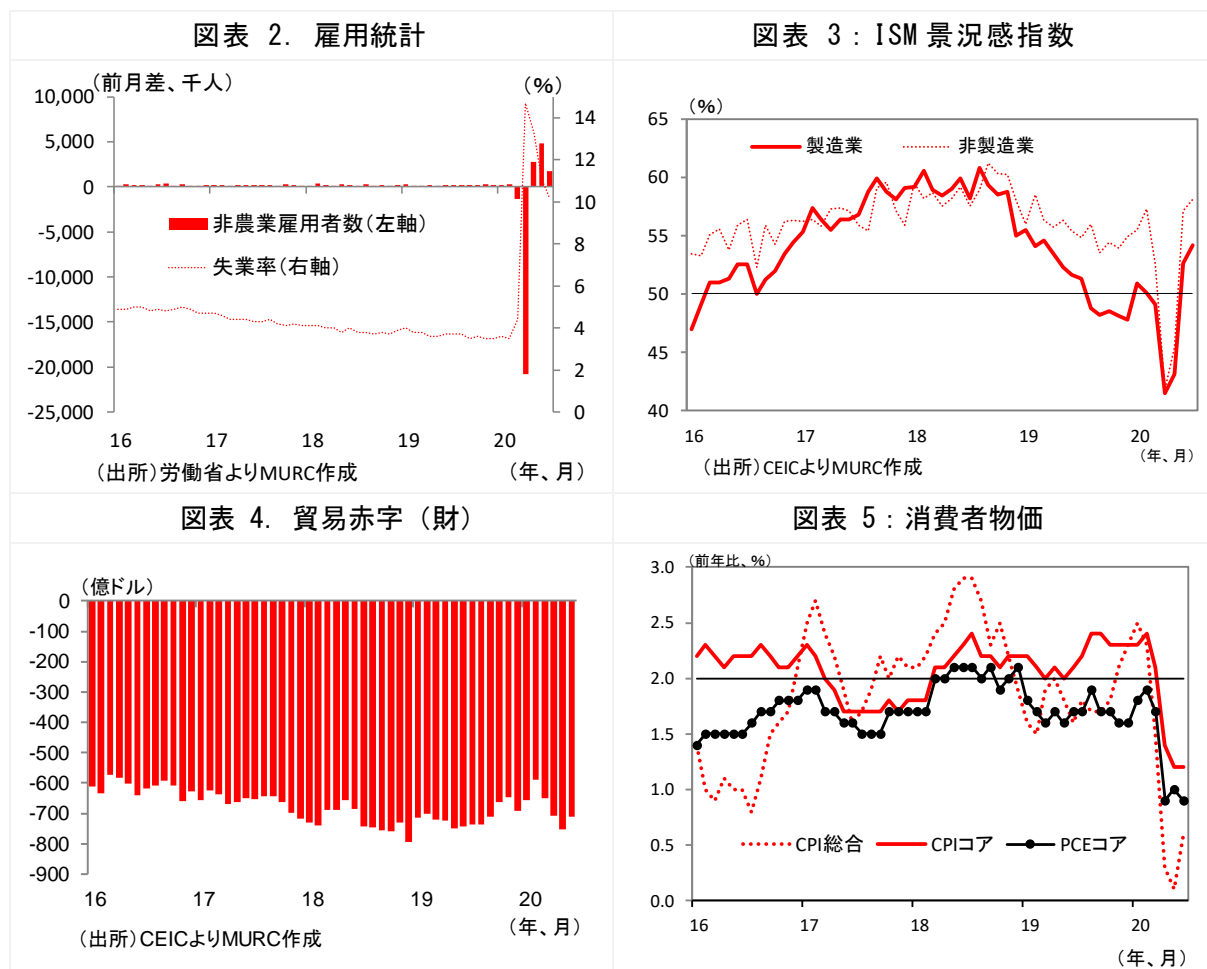
- 米国の4-6月期の実質 GDP 成長率は前期比年率 -32.9% （速報値）と、統計史上最大の落ち込みを記録した。内訳をみると、外出制限や企業活動の縮小に伴い、個人消費（同 -34.6% ）、設備投資（同 -27.0% ）が大幅に減少したほか、住宅投資（同 -38.7% ）も減少に転じた。一方、純輸出（ $+0.7\%$ pt）は輸入（同 -53.4% ）の減少もありプラス寄与を維持した。
- 経済指標は概ね5月を底に持ち直しており、7-9月期の成長率はプラスに転じる見込みである。もっとも、新型コロナウイルスの感染が再拡大しており、経済活動の再開ペースは鈍い。こうした中、追加経済対策をめぐり、議会で与野党協議が難航しており、トランプ大統領は8日、焦点である失業保険給付の上乗せを従来の週600ドルから400ドルに減額したうえで継続することなどを盛り込んだ大統領令を発動した。

図表1：実質 GDP 成長率の推移（速報値）



【経済指標】

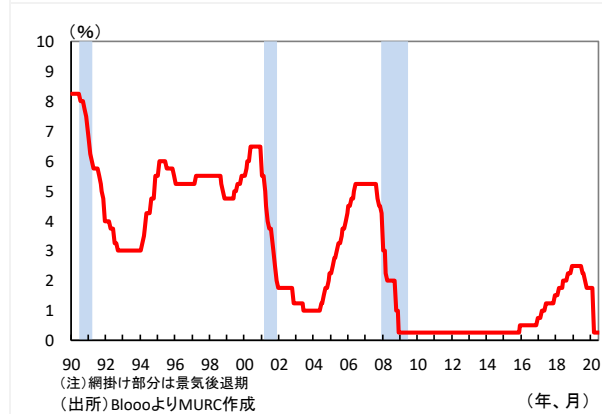
- ・ 7月の非農業部門雇用者数は前月差+176万人と3ヶ月連続で増加し、失業率も10.2%と高水準ながら3ヶ月連続で改善した（図表2）。業種別の雇用者数は飲食業、宿泊業が含まれる「娯楽・接客業」で59万人増加したが、新型コロナの感染再拡大の影響により、増加幅は前月（198万人）と比べ鈍化した。
- ・ 企業部門では、6月の鉱工業生産は、前月比+5.4%と2ヶ月連続で増加した。自動車関連産業の増産が寄与した。設備投資の先行指標である6月のコア資本財受注も同+3.4%と持ち直しが続いた。7月のISM景況感指数は、製造業が54.2、非製造業は58.1と、いずれも好不調の判断の目安となる50の水準を2ヶ月連続で上回った（図表3）。
- ・ 対外部門は、6月の財輸出は前月比+14.3%、財輸入は同+5.1%と、いずれも高い伸びとなり、輸出は4ヶ月ぶり、輸入は半年ぶりに増加に転じた。また、貿易赤字（財）は▲710億ドルと、赤字幅が4ヶ月ぶりに縮小した（図表4）。
- ・ 物価指標のうち、FRBが重視するコアPCEデフレーターは6月、前年比+0.9%と、引き続き2%の目標水準を大幅に下回って推移している（図表5）。



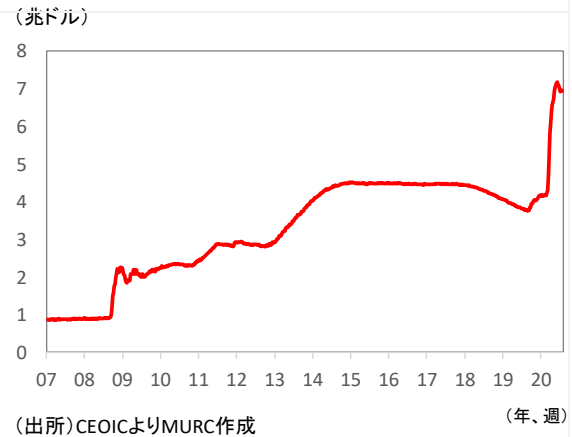
【金融政策・金融市場】

- FRBは、7月28-29日に実施された連邦公開市場委員会（FOMC）で、ゼロ金利政策と量的緩和政策の維持を全会一致で決定した。会合後に公表された声明文は、概ね前回を踏襲する内容であったが、「経済活動と雇用はやや回復したが、年初の水準を依然として大きく下回っている」との文言を追加し、また、「景気の先行きは、新型コロナウイルスの感染動向次第である」との認識を示すなど、景気への警戒感をにじませた。
- パウエル議長は会見で、今後の追加緩和策として、一段の量的緩和政策と、ゼロ金利政策の継続を確約する「フォワード・ガイダンス」の可能性を示した。後者については、早ければ次回9月会合で導入の是非が検討されるとみられる。
- 金融市場をみると、ダウ平均株価は、追加経済対策への期待などから上昇基調で推移し、8月10日に5ヶ月半ぶりの高値を更新した（8/10:27,791ドル）（図表8）。一方、長期金利は緩やかな低下基調を辿り0.5%台で推移している（8/10:0.59%）（図表9）。

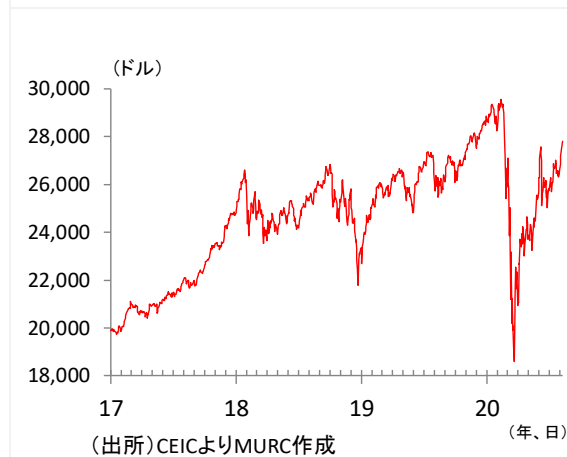
図表 6：政策金利



図表 7：FRB 総資産



図表 8. ダウ平均株価



図表 9：長期金利



ご利用に際して —

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 TEL:03-6733-1070 E-mail:chosa-report@murc.jp